

# フラッシュユ



JA青森

## ブランドトウモロコシ「バサラコーン」

### 栽培説明会（1/15）

青森農協バサラコーン部会は、浪岡支店で2024年度バサラコーン栽培説明会を開き、部会員や関係者16人が参加した。

参加者は防除暦の変更点や栽培管理上の注意点等を確認し、2024年産の生産に向けて意欲を高めた。バサラコーンは2010年に「なみおかバサラコーン」として商標登録したブランドトウモロコシ。



## JAつがるにしきた

### 高密度植わい化栽培 取組み拡大に向け勉強会（1/11）

JAつがるにしきたつがるりんご部会は、森田事業所でりんご台木勉強会および高密度植わい化説明会を行い、生産者25人が参加した。

早期多収、均質生産が可能な「高密度植わい化栽培」の普及に向け、りんご台木勉強会では、わい性台木の基礎知識や品種による樹勢比較を、高密度植わい化説明会では、管内の取組み状況や栽培メリットの説明を行った。



## JAごしょつがる

### フレッシュな意見 事業に反映（1/16）

JAごしょつがるは、若手・女性就農者を対象に、JA役職員との意見交換会を開いた。

自己改革の一環で、組合員との対話による組合への意思反映を図り、組織運営の強化を目的とし、昨年に続き今年で2回目。就農年数1年から20年の就農者12人が参加した。農業経営で困ったことや今後の課題、JAへの要望等様々な意見が出された。



## JAつがる弘前

### 機能性表示食品「ひろまる」販売（1/20）

弘前市がJAつがる弘前とJA相馬村、その他関係団体と連携し、リンゴの機能性表示食品「ひろまる」の販売を開始し、市内でPR活動を行った。

「ひろまる」はサンふじ（無袋ふじ）4個を、津軽の伝統工芸品のこぎん刺しや、雪の結晶をイメージしたデザインのパッケージに入れ、機能性表示食品の地域ブランドとして全国展開する。

### 地域の園地を守る！若手技術育成にも（1/18）

JA相馬村請負剪定隊は、今期の作業を弘前市の園地で終了した。

剪定が困難な農家から依頼を受けて代行作業を請負い、今期は9ヶ所の園地を、隊員11人で作業した。剪定隊の活動は、園地や産地収量の維持、作業を通じた世代間交流や、若手隊員にとっての技術の習得につながっている。



JA相馬村



JA津軽みらい

健康意識高める QOL健診 (1/16)

JA津軽みらいは、啓発型の健康診断「QOL健診」を本店で開いた。JA共済の「地域・農業活性化積立金」を活用した地域貢献活動の一環として実施。

管内の女性部員ら54人が参加し、問診、血圧、ベジチェック（野菜摂取量）等11項目の測定を行い、自分の健康度を確認した。



JAゆうき青森

県産牛乳をたくさんのモウ!

4町村へ牛乳配布 (1/5・9・17)

JAゆうき青森は、常勤役員3人が管内の4町村（東北町、七戸町、野辺地町、六ヶ所村）を訪問し、牛乳消費拡大に向けて各町村に、牛乳100本（1本200<sup>ミリ</sup>リットル）を贈った。

乳牛は夏に比べて冬のほうが元気になる生産量が増加し、年間で一番生産量と消費量の差が開き、余りやすい時期になるため、JAとして消費拡大に向けて県産牛乳のPR活動を行った。



JA十和田おいらせ

冬の味覚「寒締め小松菜」 寒さで甘さ引き出す (1/9)  
JA十和田おいらせ管内で、冬の味覚「寒締め小松菜」の収穫が盛んに行われている。北国ならではの寒さを生かした栽培方法で育てられ、ビタミンCや糖度が高く、肉厚で食味が良いと人気が高い。  
管内の寒締め小松菜は、2月末まで県内のスーパーを中心に出荷し、ピーク時に70ケース（1ケース5<sup>キ</sup>）を出荷する。



JAおいらせ

育てた藍で藍染めに挑戦 (1/17・18)  
JAおいらせ女性部三沢支部は、藍染め教室を開催し、同部員18人が参加した。藍染めへの挑戦は今回が3回目、藍の葉は女性部が活動の一環として2023年に栽培したもの。  
あらかじめ結んでおいた輪ゴムや、折りたたんで縫い付けていた糸をほどくと白抜きの模様が現れ、仕上がりに参加者はとても満足そうな表情を浮かべた。



JA八戸

果菜類・豆類 生産販売検討会 (1/17)

JA八戸野菜総合部会は、果菜類・豆類の令和5年度野菜生産販売検討会を八戸市で開き、市場関係者、生産者等120人が参加した。

検討会では、市場担当者が品目別に2023年度の市場情勢を説明。JA販売担当からは2023年度の販売実績や2024年産の販売計画等が報告されたほか、市場に対し高値での販売について要請を行った。

## 県農協農政対策委員会と県選出国議員との意見交換会

県農協農政対策委員会は12月25日、青森市のホテル青森で県選出国議員と意見交換会を開いた。県内JA組合長や県青協委員長、県連代表者ら17人が、出席した県選出国議員4人と意見を交わした。

同委員会の雪田徹委員長は、「食料・農業・農村基本法関連施策の具体化」について①平時を含む食料安全保障の強化、②再生産に配慮した適正な価格形成の仕組みの法制化と経営安定対策の強化、③担い手とあわせ、様々な経営体を「農業者」と位置付けることの3点を重点として要請したほか、令和6年度農業関連予算編成において対策の実現を求めた。

出席した津島淳、木村次郎、神田潤一の3衆院議員、田名部匡代参院議員に対して、資材価格高騰のほか、雇用人件費の値上がり分が価格に反映されない現状や配合飼料の高騰対策、2024年問題やリンゴの輸出対策等について意見を交わした。



▲質問をする佐々木祐輔県青協委員長

## JAグループ青森四連会長 年頭挨拶

JAグループ青森四連の雪田徹会長は1月4日、県農協会館で仕事始めの年頭挨拶を行った。県農協会館の各連合会等の役職員ら約300人が参集した。

雪田徹会長は石川県能登半島地震で亡くなられた方にお悔やみと被災者の方々にお見舞いを申しあげるとともに、「農業を取り巻く環境が厳しくなる中、引き続き、国民に安定的な食料の供給を我々がやらなければならない。また、今年は第30回JA青森県大会の開催年であることから、JAグループ役職員の力を結集し、本県農業を確



▲挨拶をする雪田徹会長

実に前にすすめ、組合員の負託に応えていきたい」と挨拶した。

会長の挨拶後、JA全農あおもりの桑田徳文県本部長の発声による頑張ろう三唱を行い、各団体の役職員が新しい年の飛躍を誓った。



▲頑張ろう三唱をする職員ら

## 行事 (2/10~3/10)

### 2月

- 12~14日 第65回全国家の光大会(横浜市)
- 14~15日 初級職員研修会2(県農協会館)
- 14日 第3回新規就農者支援対策作業部会(県農協会館)
- 14日 第3回農業労働力支援対策作業部会(県農協会館)
- 15日 担い手対応活動推進担当者会議(県農協会館)
- 15日 JA常勤監事研修会(アップルパレス青森)
- 16日 総務担当常勤理事会議(県農協会館)
- 19日 第2回営農ICT情報システム作業部会(県農協会館)
- 20日 自己査定システム「引当金業務」研修会および資産査定担当部課長会議(県農協会館)
- 26日 協同組合5団体合同研修会(県農協会館)
- 28日 農業者支援四連会議(労働力センター会議)(県農協会館)
- 29~3月1日 非常勤理事研修会(アップルパレス青森)
- 29日 暮らしの活動研修会(県農協会館)

### 3月

- 4日 経営管理研修会(基礎)および計算書類等および事業報告等読み方研修会(県農協会館)
- 5日 経営管理研修会(県農協会館)
- 5日 県JA女性協 第7回定例理事会(県農協会館)
- 6日 定例理事会(県農協会館)
- 6日 県JA協議会 JA常勤役員情報交換会(ホテル青森)

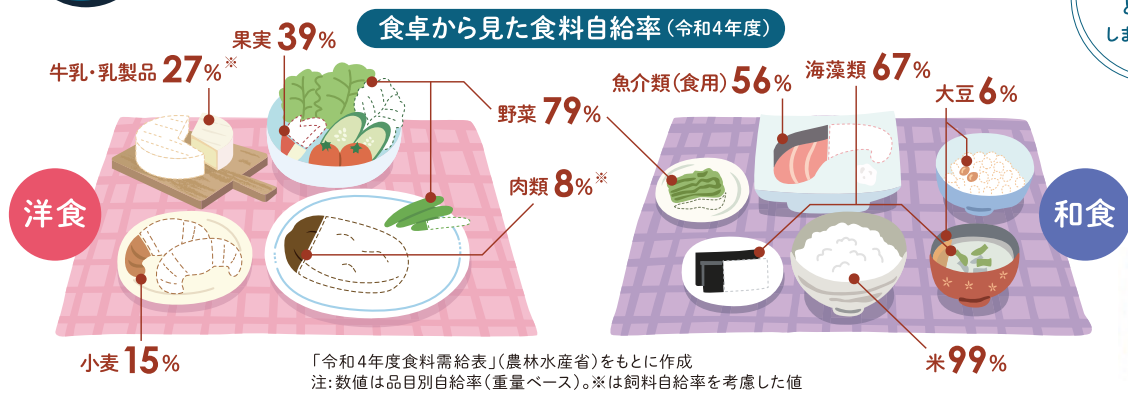
# 乃木坂46と一緒に学ぶ「**国消国産**」

なぜ今  
国消国産？

私たちが食べているものの約6割<sup>※</sup>は外国から輸入している

※出典:「令和4年度食料需給表」(農林水産省)

もし輸入が  
止まってしまったら  
どうなって  
しまうのだろう



国消国産を  
すすめると?

## 『国消国産』は私たちの食卓を未来へつなぐこと



JAグループが『国消国産』を提起したのは、「私たちの『国』で生『産』した食べものを、この『国』で『消』費する」だけでは、食べものの多くを輸入に頼る危うい状況を変えられないからです。『**国消国産**』は、

「私たちの『国』で『消』費する食べものは、できるだけこの『国』で生『産』する」という考え方。これを実践することは、食料自給率の向上、ひいては私たちの食卓を未来へつなぐことにもなるんです。



## 「国消国産」は地産地消やSDGsにもつながっている

各地で、**地産地消**を  
すすめよう!

その地域で生産された農畜産物を  
その地域で消費しよう

例えば

JA直売所で  
地元の新鮮な  
農畜産物を手にとる

**農家の皆さんを応援!!**

**国消国産の実現!**

私たちの『国』で『消』費する食べものは、  
できるだけこの『国』で生『産』する

そのことによつて

- 食料自給率が高くなる
- 農畜産物を生産する力が高まる
- 次世代の農業生産者が増える

**SDGs**  
にも貢献

- 食材を長距離輸送する必要がなく、CO<sub>2</sub>排出量の削減で“つくる責任”に貢献
- 必要以上の食料輸入をしないことで、“飢餓をゼロに”に貢献

日本の未来を支える農業。乃木坂46は、JAグループの「国消国産」を応援します。



メンバーが生産現場で奮闘する動画を公開中!  
楽しんで学べるコンテンツがたくさん!  
ぜひアクセスしてください!

乃木坂46 国消国産



JAグループ  
耕そう、大地と地域のみらい。



## 令和6年能登半島地震被災者にJAバンク貯金緊急払い出し対応中

JAバンクでは、令和6年能登半島地震で被災した石川県内のJAご利用者を対象に、2024年2月29日まで全国のJA店舗で貯金の緊急払い出し対応を行っており、通帳やお届け印がなくても、お取引JA以外の全国のJA店舗にて、本人確認のうえ、10万円を上限に貯金の払い出しができる。

また、お届け印、通帳、証書もしくはキャッシュカード等を紛失した場合の届出もお取引JA以外の全国のJA店舗で受付している。

お問い合わせは、お取引JAまたは次のご相談窓口まで。

【JAバンク石川 お客様ダイヤル】  
フリーダイヤル：0120-307-766  
受付時間：平日9：00～17：00

## 2023年度住宅ローン専任担当者情報交換会を開催

JAバンク青森は、1月16日に「2023年度住宅ローン専任担当者情報交換会」を開催し、県内JAから12名の住宅ローン専任担当者が出席した。

本情報交換会は、住宅ローンを中心とした貸出強化の観点から、住宅ローン専任担当者のモチベーションの向上および営業ノウハウの共有を図ることを目的に県域および全国の2部制で開催したものの。

第1部は、県域にてJAバンク青森中期戦略における2024年度のローン領域の具体的な取組事項を確認したほか、ハウスメーカーを対象とした業者営業活動をテーマにグループディスカッションを行い、活動のなかでの悩みや課題、各担当者が工夫している取組みなどを共有し、課題解決策を話し合った。



▲第1部のグループディスカッションで解決策を話し合う出席者

第2部は全国のJAをリモートで繋ぎ、資材価格高騰や人件費の増加で新築住宅着工数が伸び悩む一方で注目が高まっている中古住宅への推進戦略などをテーマに情報交換会を実施。中古住宅市場の現状や今後の動向について情報を共有したほか、住宅関連会社による講演で中古住宅買取再販

事業（空き家等を再生して販売する事業）への理解を深めた。

また、住宅ローン推進の優良事例として、信用・共済の事業間連携で成果を上げている「JAしまね（島根県）」の取組みが紹介された。



▲第2部の住宅関連会社の講演に耳を傾ける出席者

JAバンク青森は、今後も情報交換会や営業戦略会議等を通じて、県内JAの住宅ローン専任担当者間の情報連携とスキル向上に取り組んでいく。

## 農林中央金庫青森支店が「青森県キャッシュレス納付推進共同宣言」に参画！

農林中央金庫青森支店は、青森県における税金等のキャッシュレス納付利用率向上への取組みに賛同し、JAバンク青森を代表して「青森県キャッシュレス納付推進共同宣言」に参画する。

本宣言は、「納税者利便の向上」「税務行政の効率化」「税公金の収納・支払の効率化」に寄与する国税・地方税のキャッシュレス納付のより一層の普及を目指し、国、地方公共団体、金融機関、関係民間団体が連携・協力し、共同して推進していくことを目的としたもの。

参加団体は71団体で、2月7日に「青森県キャッシュレス納付推進宣言式」の開催を予定している。

### 行事（2/10～3/10）

#### 農林中央金庫

2月

- 15日 JAバンク青森運営協議会専門委員会（ウェブ会議）
- 20日 JA信用事業における反社会的勢力対応研修（ウェブ会議）
- 22日 営業戦略会議（農協会館）

3月

- 3日 銀行業務検定試験／コンプライアンスオフィサー認定試験（各会場）
- 7日 青森県JA信用担当部課長会議（ウェブ会議）

#### 農協電算センター

3月

- 6日 定時取締役会（県農協会館）

## 系統農薬事業推進会議

JA全農あおもりは12月13日、青森市のホテル青森で「系統農薬事業推進会議」を開き、農薬メーカー担当者らが出席。令和6農薬年度における農薬取扱要領について共有するとともに、系統農薬の安定供給に向けて協力を求めた。

また、新たに低コスト剤の普及により担い手接点強化をはかるとともに、りんご害虫密度低減の取り組みである交信かく乱剤の普及拡大に努めることとした。

全農あおもりの成田具洋副本部長は「農薬価格が前年に続き値上げとなり厳しい状況が続いているが、系統品目の取扱拡大に努めていく」と話した。

この他、生産指導情報についても共有をした。



▲あいさつする成田副本部長

## JA-LPガス担当部課長会議

JA全農あおもりは12月14日、青森市の農協会館でJA-LPガス担当部課長会議を開いた。県内JAや関連会社担当者らが参加し、2回目となる「LPガス料金負担軽減生活者緊急支援事業」の概要と対応について説明した。

当事業は、LPガスの料金上昇の影響を受ける家庭の負担軽減策としてLPガス販売事業者を通じて料金の値引きを行い、県が助成するもの。

全農あおもりは、1月分のLPガス料金を1契約（1世帯）につき最大2千円の値引きを行う。他にも交付申請の手続き業務や検針データの処理、助成金に関する業務など円滑な運営を図るとした。

全農あおもり営農購買部の三浦強次長は、「8月に続き2回目の支援事業が県議会により決定された。多くの家庭に利用してもらい、料金負担を

軽減できるよう、積極的に取り組みたい」と述べた。



▲説明を受ける出席者

## 「JA全農 COUNTDOWN JAPAN」で県産にんにく紹介

JA全農あおもりは12月16日、ラジオ番組「JA全農 COUNTDOWN JAPAN」で青森県産にんにくの魅力を発信した。

番組では青森県産にんにくの特徴として「日本一の生産量を誇り、国内出荷量の約7割を占める」などと紹介。「薄皮を剥いて1片ずつ小分にけし、ラップに包み冷凍すると長期保存が可能」と保存方法についてもすすめた。

同番組のパーソナリティを勤めるジョージ・ウィリアムズさんと安田レイさんがにんにくの丸焼きを試食。「丸焼きおいしい」「シンプルが一番元気になる」と好評であった。「にんにくパワーで忙しい時期を乗り越えていこう」と視聴者に向けてエールを贈った。

番組側から、視聴者プレゼントとしてにんにく1キロを3名様に贈る。



▲ラジオでにんにくをPR

## やすらぎホール音楽祭

JA全農あおもりは12月16日、「やすらぎホー

ル音楽祭」を開いた。場所は、黒石市の津軽葬祭センター「JAやすらぎホール黒石」。入場は無料で、約250人の来場者で賑わった。

正調黒石ねぶた囃子、幸成保育園児によるダンス、津軽民謡歌手のかすみさんや弘前大学フィルハーモニー管弦楽団らによるステージなどを実施。

また、60歳以上先着40名様には、生前遺影写真撮影会を無料で提供した。

来場者からは「イベントに参加してよかった」「楽しかった」などの声があり、今後もJA葬祭ホールの認知促進に努めていく。



▲ステージイベントを楽しむ来場者

### 第49回青森県花の共進会表彰式並びに花き振興セミナー

JA全農あおもりと青森県は12月18日、青森市の県総合社会教育センターで「第49回青森県花の共進会表彰式並びに花き振興セミナー」を開いた。入賞者や生産者など関係者ら45人が参加し、7月の審査会で選出した入賞者11人を表彰した。

最優秀賞・農林水産大臣賞として表彰されたのはJA八戸の荻沢功さん。出品したトルコギキョウ（ボヤージュライトピンク）が選ばれた。

またセミナーでは、トルコギキョウの品質向上に向けた、赤色LEDライトを用いた栽培方法についての講演が行われた。

7月の審査会には、県内の花き生産者から計140点の出品があった。

最優秀賞以外の上位入賞者は次の通り。（敬称略）

▽優秀賞＝㈱咲花園（アルストロメリア・JA津軽みらい）佐野純一（輪ギク・JA八戸）渋谷富志子（トルコギキョウ・JAつがるにしきた）

▽金賞＝寺山多喜男（トルコギキョウ・JAつがるにしきた）小笠原厚子（カラー・JA青森）館野隆行（ディスバッドマム・JA八戸）福地秀俊（ひまわり・JA津軽みらい）藤森光明（輪ギク・JAごしょつがる）高松岩男（かすみ草・JAつ

がるにしきた）千沢正知（トルコギキョウ・JA八戸）



▲表彰を受ける最優秀賞の荻沢さん

### 大豆フレコン物流試験

JA全農あおもりはJA・全農物流(株)・(株)ヤマウ鳥谷部臨港倉庫・販売先と協力し、令和5年度大豆で「大豆用全農統一フレコン（角形隔壁型）」を用いた保管・輸送試験を進める。これにより、JA・販売先の「作業時間・労力が紙袋と比較して削減されること」や、保管倉庫における「従来型（角形）フレコンよりも保管効率が上回ること」「紙袋と比較して遜色ない保管効率であること」を検証する。

この試験は、農林水産省による「新たな麦・大豆流通モデルづくり事業」に関する費用助成を受けて実施するもの。

国産大豆については、中小規模の実需者向けの紙袋による流通が主流となっているが、一方で紙袋輸送業者の減少や、大規模実需者から紙袋解体作業の労力軽減を求められておりフレコンでの需要が高まっている。

全農あおもりは、作業・運送・保管の効率化による持続可能な大豆の生産・供給体制を確立し、かつ大規模実需者からの要望に応えるため、「大豆用全農統一フレコン（角形隔壁型）」の取扱拡大を図っていく。

実証試験に携わるヤマウ鳥谷部臨港倉庫の玉井真吾事業部長は、「倉庫では保管効率の面からフレコンは多段積みをしなければ紙袋からの切り替えができない。このフレコンはすわりがよく、5段積みにも難なく対応できる。多段積みの可能性や安全性についても十分立証できる。」と語る。

今回の試験では、フレコンのロットが120本（約108トン）程度を境に紙袋よりも省スペースになることが既に判明している。今後は、消費地への輸送や販売先での省力化を検証するとともに、荷姿による水分・成分変化の差異を比較しデータを収集していく。



▲はい積みされた大豆フレコンを検証する担当者ら

## 農林水産物歳末市

JA全農あおもりは12月28日、第18回目となる農林水産物歳末市を青森市の県農協会館で開いた。

家族みんなで来場して欲しいという願いを込め、お米大使とゲームができるちびっこコーナーを設置。多くの家族連れで賑わい、「お米大使に会えて嬉しい」と喜ぶ子どもたちが多くいた。

また、県産のりんご、ながいも、ごぼう、にんにくやおもり和牛、りんごジュースなどをお買い得価格で販売した。

その他、なまこ等の水産物や切り花、JA青森女性部の切り餅なども販売した。

来場者先着300名を対象とした抽選会も実施し、楽しめるイベントに。

歳末市は、県産農畜産物の消費拡大と地域貢献を目的に毎年年末に開いているもの。



▲お米大使とふれあう子ども

## オリジナル食育絵本贈呈式

「子どもたちに食べることの楽しさと、青森県産農畜産物へ親しみを持ってもらいたい」

JA全農あおもりは、食育活動の取組みとして、オリジナル絵本を制作した。タイトルは「おにぎりのやくそく」。

お腹を空かせた宇宙人「ポムくん」が青森に住む「りんちゃん」とその家族に出会い、一緒にお

にぎりを作って楽しく食事をするという内容。けの汁などの郷土料理も盛り込み、おにぎりと一緒に地元の食べ物に愛着をもって欲しいという願いを込めた。

全農あおもりが監修し、絵本作家かとうまふみ氏が執筆した。

絵本の完成を記念し、1月17日の「おむすびの日」に合わせて贈呈式を開いた。17日に青森県保育連合会、18日に青森県私立幼稚園連合会へ、全農あおもりの桑田徳文県本部長が目録を手渡した。

絵本は2月下旬より順次、県内各地の保育園・幼稚園、公立図書館等へ合わせて1100部配布する。桑田県本部長は「ぜひ食育へ活用してほしい。本を通じて子どもたちに県産農畜産物についてもっと知ってもらえたら」と話す。

今後は絵本を活用し、読み聞かせ会やおにぎり作りなど食育イベントを実施していく。



▲絵本を手にする関係者（上：桑田県本部長<sup>㊟</sup>、県保育連合会渡邊建道会長<sup>㊟</sup>）  
（下：桑田県本部長<sup>㊟</sup>、県私立幼稚園連合会山西幸子会長<sup>㊟</sup>）

### 行事（2/10～3/10）

- |           |                   |
|-----------|-------------------|
| <b>2月</b> |                   |
| 15、16日    | 購買担当者窓口研修会（県農協会館） |
| <b>3月</b> |                   |
| 6日        | 運営委員会（県農協会館）      |



## 令和5年度JA共済全国小・中学生 書道・交通安全ポスターコンクール 入賞者決定

JA共済連は、令和5年11月20日に書道コンクール、11月24日に交通安全ポスターコンクールの全国審査会を開催し、青森県の応募作品から書道は計6点（条幅の部2点・半紙の部4点）、交通安全ポスターは計6点が入賞した。

両コンクールは、共済事業の理念である相互扶助と思いやりの精神を、次世代を担う小・中学生へ伝えていくとともに児童・生徒の書写教育に貢献することを目的に「書道コンクール」を、また、児童・生徒の図画工作・美術教育の高揚を図り交通安全思想を幅広く社会に訴えることを目的に「交通安全ポスターコンクール」を開催しており、地域貢献活動（文化支援活動）の一つとなっている。

今年度で、書道コンクールは67回目、交通安全ポスターコンクールは52回目の開催を迎えた。

### ▼応募状況

部門	応募学校数	応募作品数
条幅の部	11,884校	77,694点
半紙の部	17,364校	940,907点
交通安全ポスターの部	5,926校	92,150点

全国コンクールは、応募作品の中から各都道府県コンクールにおいて優秀な成績をおさめた書道842点（条幅の部：420点、半紙の部：422点）、交通安全ポスター343点の審査が行われた。書道コンクールでは、高木聖雨氏（日本芸術院会員・日展理事）をはじめとする審査員が審査を行い、交通安全ポスターコンクールでは、中島祥文氏（多摩美術大学名誉教授・アートディレクター）をはじめとする審査員が厳正なる審査を行い、入賞作品が決定された。

青森県からは、書道半紙・条幅の部、交通安全ポスターの部の最優秀賞計27点を全国コンクールへ応募した。書道の部は、全国農業協同組合中央会会長賞1点、全国共済農業協同組合連合会会長賞・銅賞2点、佳作3点が受賞した。交通安全ポスターの部は、全国共済農業協同組合会長賞・金賞1点、銅賞3点、佳作2点が受賞した。

受賞した皆さんおめでとうございます。

### ●書道の部

〈条幅の部〉

- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・佳作 野呂 瞬翔さん（板柳町立板柳南小学校4年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・佳作 白川 茉莉愛さん（藤崎町立常盤小学校6年）

〈半紙の部〉

- ・全国農業協同組合中央会会長賞 野呂 莉桜さん（板柳町立板柳中学校1年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・銅賞 三上 天夢さん（板柳町立板柳南小学校1年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・銅賞 坂井 萌彩さん（弘前大学教育学部附属小学校3年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・佳作 奈良 ひよりさん（青森市立浪打中学校2年）

### ●交通安全ポスターの部

- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・金賞 下山 和瑚さん（青森市立新城中学校1年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・銅賞 佐藤 楓さん（むつ市立第三田名部小学校4年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・銅賞 山下 菜和さん（西目屋村立西目屋小学校5年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・銅賞 福地 咲文さん（弘前市立致遠小学校6年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・佳作 相馬 結月さん（むつ市立若生小学校1年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・佳作 葛西 咲乃さん（大鰐町立大鰐小学校3年）



←書道半紙の部で全国農業協同組合中央会会長賞を受賞された野呂莉桜さんの作品



交通安全ポスターの部で全国共済農業協同組合連合会会長賞金賞を受賞された下山和瑚さんの作品→

### 行事（2/10～3/10）

2月

- 14日 仕組改訂・事務改善事項研修会（リモート）
- 21日 仕組改訂・事務改善事項研修会（リモート）

3月

- 6日 運営委員会（県農協会館）

## 青森県の令和4年農業産出額及び生産農業所得

### 農業産出額は3,168億円、東北1位、全国7位

令和4年青森県の農業産出額は、3,168億円となりました。前年に比べて109億円(3.3%)減少しましたが、8年連続で3,000億円を上回りました。東北では19年続けて1位となり、全国順位も7位となっています。

青森県の農業産出額上位10品目をみると、りんご、にんにくは全国1位、やまのいもは2位、だいこんは3位、ブロイラーは4位となっています。

部門別の構成割合をみると、青森県は主要部門でバランスが取れた構成となっています。

生産農業所得は、前年に比べて146億円減少し、1,148億円となりました。

表 農業産出額上位10品目（青森）

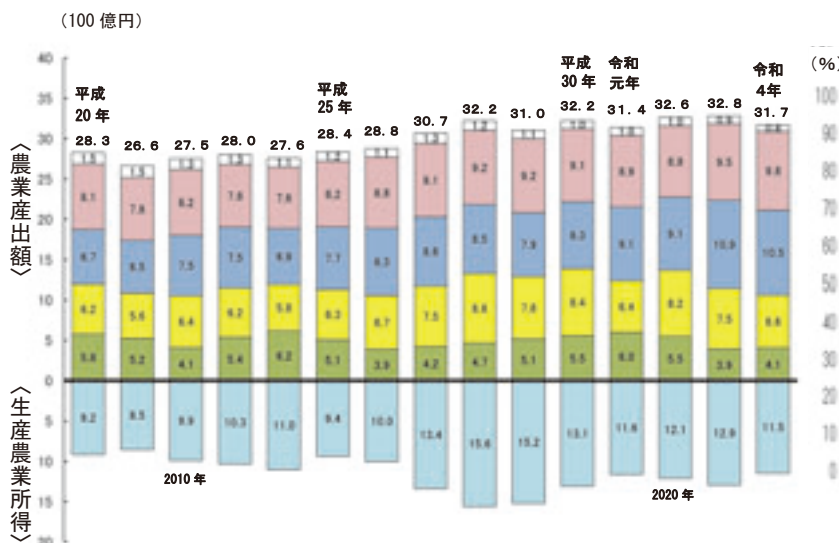
順位	品目	青 森		全国順位
		産出額 億円	構成割合 %	
	農業産出額計	3,168	100.0	7 ( 7 )
1	りんご	988	31.2	1 ( 1 )
2	米	405	12.8	12 ( 12 )
3	豚	240	7.6	11 ( 11 )
4	鶏卵	234	7.4	8 ( 9 )
5	ブロイラー	217	6.8	4 ( 4 )
6	肉用牛	171	5.4	14 ( 14 )
7	にんにく	137	4.3	1 ( 1 )
8	やまのいも	104	3.3	2 ( 2 )
9	生乳	83	2.6	16 ( 19 )
10	だいこん	76	2.4	3 ( 3 )

資料：農林水産省『生産農業所得統計』

注：1 順位付けは、秘密保護上統計数値を公表していない品目を除いたものであり、原数値(100万円)により判定した。

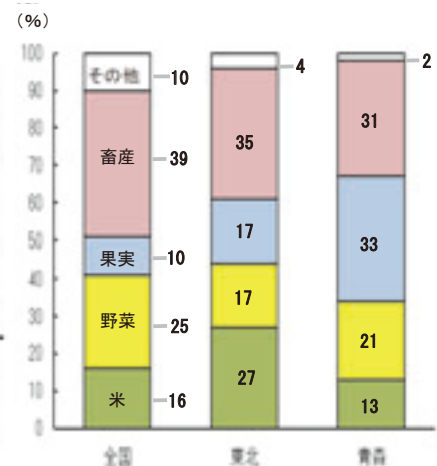
2 ( )は前年の全国順位である。

図1 農業産出額及び生産農業所得の推移（青森）



資料：農林水産省『生産農業所得統計』

図2 農業産出額の部門別構成割合



資料：農林水産省『生産農業所得統計』

注：全国は、都道府県別農業産出額の合計値である。

# 実践 農業者支援

## 「よりよい営農活動」の取組み ～GAP手法を活用した営農の実践～

### 1. GAPをめぐる情勢

GAP（農業生産工程管理）については、2020年3月に閣議決定した「食料・農業・農村基本計画」の中で、農業の持続的な発展に関する施策として『2030年までにほぼすべての産地で国際水準GAPが実施されるよう、現場での効果的な指導方法の確立や産地単位での導入を推進する』という目標が示されています。また、みどりの食料システム戦略、SDGs（持続可能な開発目標）への貢献や食料・農業・農村基本法の見直し、食料安全保障の強化などGAPの5分野①食品安全②環境保全③労働安全④人権保護⑤農場経営管理に取り組んでいくことが求められています。

### 2. JAグループの取組み

JAグループでは、「JAグループにおけるGAPへの取り組み方針」（平成29年5月）を決定し、第三者認証取得の推進を図ったほか、第29回JA全国大会（令和3年10月）において、GAPを営農指導の基礎に位置付けた実践支援を決議しました。この結果、全国のほとんどのJAで生産履歴記帳に取り組んでいるほか、GAP団体認証数がJGAPで約200件（ASIAGAPで約110件）、JAのGAP指導員（GH農場評価員）の育成が進みました。

一方で、GAPに取り組む上での課題も多く①GAP認証の維持・更新費用等のコスト負担が大きい②販売価格に反映されない③消費者・実需者に知られていない④人員不足・事務局の負担が大きい⑤農家組合員の合意形成が難しい等の声があがっています。

### 3. 「よりよい営農活動」の取組み

このことからJAグループでは、GAP手法を活用した営農の実践（GAPをする）を基本とする「よりよい営農活動」を、全ての生産組織に拡げていくことをめざすとしています。

生産組織（品目）単位にGAPの5分野の取組を行います

- ① 農産物の汚染や異物混入の防止といった食品安全の取組
- ② 化学農薬・化学肥料の使用量低減などの環境保全の取組
- ③ 農作業の安全確保や健康状態への配慮などの労働安全の取組
- ④ 労働環境の整備や労働条件の遵守などの人権保護の取組
- ⑤ 責任者や役割分担の明確化や教育訓練の実施といった農場経営管理の取組

### 4. まとめ

「よりよい営農活動」をすすめるため、県域では指導できる人材育成が重要と考えますので、GAP指導員・GH農場評価員・営農指導員資格認証（農業経営実務）の資格取得に向けた研修会等を開催するとともに、新たにGAP認証取得希望JAに対する支援についても継続して実施して参ります。

（中央会 農業対策部）

# 経営の窓口

## 令和5年度 J A職員資格認証試験結果

### 1. 各種別の受験状況と試験結果

今年度のJ A職員資格認証試験の結果がまとまりましたので報告します。

初級・中級・上級の受験者総数は277人で、前年度の337人から60人減少しました。合格者数は172人で、前年度の202人から30人減少しました。

各種別の内容については次のとおりです。

#### (1) 初級

受験者は79人で、前年度から31人減少しました。科目別の平均点は、「J A基礎」と「J A簿記基礎」で全国平均を下回ったものの、「農業情勢基礎」では県平均が全国平均を上回りました。合格者は58人で、前年度から21人減少しましたが、合格率は73.4%と前年度から1.6ポイント増加しました。

#### (2) 中級

受験者は95人で、前年度から20人減少しました。科目別の平均点は、すべての科目で全国平均を3ポイント以上上回り、特に「J A簿記会計」では県平均が全国平均を5ポイントも上回りました。合格者は61人で、前年度から4人減少しましたが、合格率は64.2%と前年度から7.7ポイント増加しました。

#### (3) 上級

受験者は103人で、前年度から9人減少しました。科目別の平均点は、「J A経営管理・農業協同組合論」と「J A人事管理」で全国平均を下回ったものの、「J A財務・管理会計」では県平均が全国平均を上回りました。合格者は53人で、前年度から5人減少し、合格率も51.5%と前年度から0.3ポイント減少しました。

※ 詳細は、下表「種別」試験結果概要をご覧ください。

### 2. 受験目的の再確認と人材育成の強化を

本稿には記載していませんが、J A別の合格率をみると中級と上級で50%を下回るJ Aがありました。当試験の目的は、J Aに従事する職員の資質を高め、技能を磨くとともに職員の地位の向上を図ることにあります。

合格者を多く輩出することは、J AにとってJ A全般の知識を有し、J Aのため、組合員のため、職員のため、あらゆる立場に立って対応できる職員を育成することにつながります。

受験する職員にとっても、各種別の科目は階層別に求められる知識であり、業務を遂行するにあたって必要な知識の習得になります。また、当試験に合格することは、合格一時金・毎月の手当の支給や昇格基準への反映などメリットも多いと思われます。

各J Aにおいては、求める人材育成の強化のため、各試験の合格目標を設定するなど、資格取得に向け引き続き取り組んでいただきたいと思います。

(J A青森中央会 経営対策部)

#### 「種別」試験結果概要

○初級 「科目別平均点等」 (点、人)

	「科目別平均点等」		最高点	最低点	60点以上 取得者
	本県 平均	全国 平均			
J A 基礎	73.6	74.5	96	41	59
農業情勢基礎	67.4	66.3	88	36	55
J A 簿記基礎	70.3	71.4	100	22	52

「受験者数等」 (人、%)

	「受験者数等」		
	R05	R04	R05-R04
受験者数(人)	79	110	△ 31
合格者数(人)	58	79	△ 21
合格率	73.4	71.8	1.6
科目合格者数(人)	11	11	0

○中級 「科目別平均点等」 (点、人)

	「科目別平均点等」		最高点	最低点	60点以上 取得者
	本県 平均	全国 平均			
J A事業論・協同組合論	67.9	64.9	93	29	63
農協法	67.1	64.1	98	32	60
J A 簿記会計	66.3	61.3	100	5	59

「受験者数等」 (人、%)

	「受験者数等」		
	R05	R04	R05-R04
受験者数(人)	95	115	△ 20
合格者数(人)	61	65	△ 4
合格率	64.2	56.5	7.7
科目合格者数(人)	19	19	0

○上級 「科目別平均点等」 (点、人)

	「科目別平均点等」		最高点	最低点	60点以上 取得者
	本県 平均	全国 平均			
J A経営管理・農業協同組合論	64.2	67.0	93	28	63
J A財務・管理会計	59.0	57.7	100	17	46
J A人事管理	70.5	71.7	100	33	64

「受験者数等」 (人、%)

	「受験者数等」		
	R05	R04	R05-R04
受験者数(人)	103	112	△ 9
合格者数(人)	53	58	△ 5
合格率	51.5	51.8	△ 0.3
科目合格者数(人)	25	17	8

# 令和5年度認証試験合格者名簿

初級 (58人)

JA名	氏名
青森	大柳 翔太郎
青森	川口 栄子
青森	工藤 朋子
青森	工藤 菜都美
青森	成田 美央
つがるにしきた	石岡 佑基
つがるにしきた	尾野 文紀
つがるにしきた	工藤 美優
つがるにしきた	成田 留美香
ごしょつがる	鎌田 悠希
ごしょつがる	成田 祐也
ごしょつがる	山田 貴也
ごしょつがる	世永 海
つがる弘前	阿保 海心
つがる弘前	天内 太陽
つがる弘前	斎藤 剛志
つがる弘前	笹森 健太
つがる弘前	佐藤 主理
つがる弘前	進藤 徳宗
つがる弘前	富島 斗亜
つがる弘前	福田 翔
相馬村	石田 有希子
相馬村	田村 慎平
津軽みらい	飯塚 菜月
津軽みらい	葛西 祐弥
津軽みらい	唐牛 瞬
津軽みらい	木村 ひかり
津軽みらい	工藤 貢大
津軽みらい	佐藤 光翼
津軽みらい	藤田 茉倫
津軽みらい	山口 真人
十和田おいらせ	浅田 幸輝

中級 (61人)

JA名	氏名
青森	小笠原 里玖
青森	佐々木 礼奈
青森	神 勇佑
青森	松江 和大
つがるにしきた	秋田 誉貴
つがるにしきた	荒関 真奈美
つがるにしきた	葛西 陽介
つがるにしきた	工藤 詩乃
つがるにしきた	熊谷 太一
つがるにしきた	高橋 優海
ごしょつがる	石田 瑞貴
ごしょつがる	一戸 亜矢子
ごしょつがる	木村 裕二
ごしょつがる	小林 久晃
ごしょつがる	高橋 尚久
ごしょつがる	成田 智広
つがる弘前	小田桐 綾乃
つがる弘前	工藤 花梨
つがる弘前	竹内 智咲
つがる弘前	能勢 風香
つがる弘前	鼻和 佑名
相馬村	阿部 将仁
相馬村	小野 恵子
相馬村	工藤 純輝
相馬村	工藤 弘美
相馬村	児玉 広樹
相馬村	成田 大知
津軽みらい	浅利 颯太
津軽みらい	車谷 朋香
津軽みらい	古川 芽衣
津軽みらい	佐藤 諒
津軽みらい	箱田 竜亮

上級 (53人)

JA名	氏名	JA名	氏名	JA名	氏名
津軽みらい	平田 藍里	青 森	林 幸生	津軽みらい	小関 七海
津軽みらい	三上 裕子	青 森	三浦 千鶴	津軽みらい	佐藤 美滯
津軽みらい	山本 桂大	青 森	吉田 正	津軽みらい	佐藤 義政
十和田おいらせ	妻神 蓮	つがるにしきた	蝦名 諒汰	津軽みらい	千葉 暢子
十和田おいらせ	佐々木 華穂	つがるにしきた	粕谷 大	津軽みらい	渡邊 周平
十和田おいらせ	佐々木 康高	つがるにしきた	竹浪 教司	十和田おいらせ	谷坂 咲子
十和田おいらせ	中山 古都	つがるにしきた	土岐 純一	十和田おいらせ	仲松 満利子
十和田おいらせ	樋口 心愛	つがるにしきた	松舘 亜優美	十和田おいらせ	樋口 功太
十和田おいらせ	福田 一馬	つがるにしきた	三浦 朱里	十和田おいらせ	山田 友乃
ゆうき青森	蛭沢 来夢	つがるにしきた	三上 悌一	ゆうき青森	大坊 知明
ゆうき青森	川崎 由香	ごしょつがる	笠井 貴宏	ゆうき青森	原子 亜由美
ゆうき青森	工藤 芽衣	ごしょつがる	加藤 沙輪子	おいらせ	久保田 篤実
ゆうき青森	本間 隼人	ごしょつがる	木村 亜沙美	おいらせ	田中 啓佑
八 戸	上村 僚	ごしょつがる	小関 枝里	おいらせ	種市 はるか
八 戸	大長根 万愉	ごしょつがる	坂本 潤治	おいらせ	遠島 詩音
八 戸	川口 夢実	ごしょつがる	上見 聖幸	八 戸	鹿内 夏実
八 戸	小原 奈央子	ごしょつがる	成田 睦男	八 戸	滝沢 秀子
八 戸	高橋 明美	ごしょつがる	成田 由香理	八 戸	田中 彰
八 戸	西野 秀規	ごしょつがる	三橋 律子	八 戸	徳田 卓也
八 戸	松橋 優花	つがる弘前	對馬 智恵子	八 戸	戸田沢 拓哉
八 戸	向 汐音	つがる弘前	福田 りえ	八 戸	村山 一星
全農あおもり	竹村 歩己	津軽みらい	一戸 慧史	八 戸	吉田 昂平
全農あおもり	松田 秀平	津軽みらい	一戸 真理子	八 戸	渡辺 尚輝
全農あおもり	平澤 亜美	津軽みらい	小山内 郁弥	共済連青森	長内 克文
全農あおもり	佐々木 隼	津軽みらい	加藤 令子		
全農あおもり	赤石 健太郎	津軽みらい	工藤 綾乃		
全農あおもり	中谷 五美	津軽みらい	工藤 沙織		
青森中央会	小原 双葉	津軽みらい	古川 大樹		
青森中央会	田村 恵太郎	津軽みらい	古川 礼子		

**合格おめでとうございます。**

# 組織農政通信

## PDCA サイクルを活用した SDGs の取り組み

### 1. SDGs と J A グループ青森

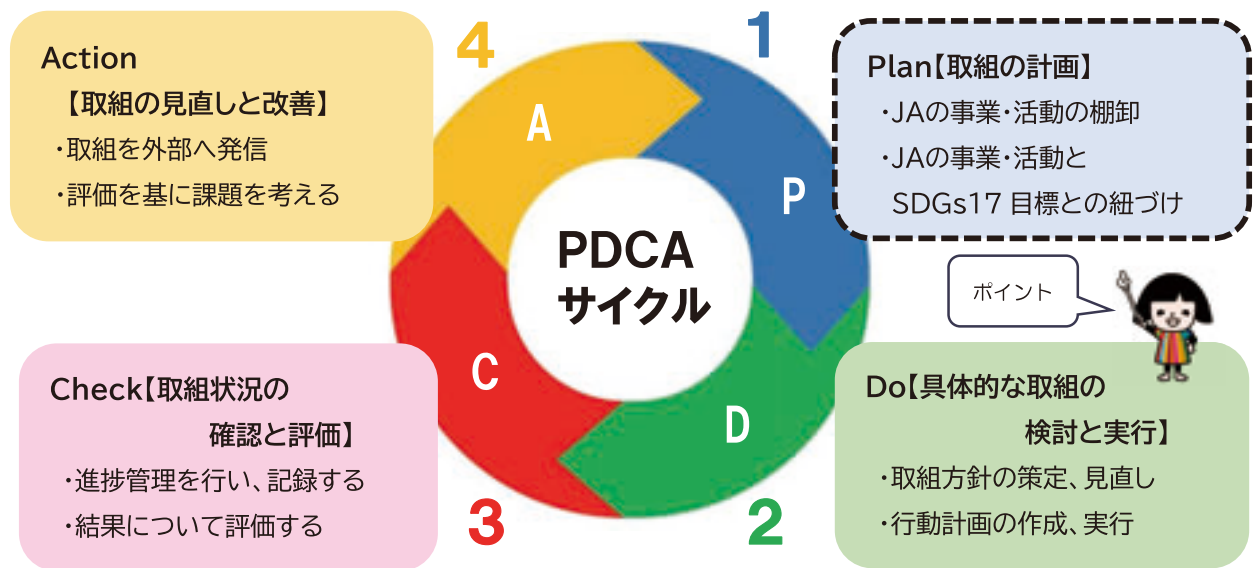
J A グループ青森は、第29回 J A 青森県大会において「持続可能な農業と地域の実現」を目指すとともに、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献すると掲げた。



### 2. SDGs と PDCA サイクル

環境省は SDGs に取り組む団体、企業のために「持続可能な開発目標（SDGs）活用ガイド」を公表しており、その中では PDCA サイクルの活用を推奨している。

PDCA サイクルとは、Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Action（改善）のプロセスを繰り返すことで、業務の改善や効率化を図る手法の一つである。



※ Plan の段階で、J A の事業・活動内容と SDGs の紐づけを説明できるかが重要。

### 3. 全国の J A の SDGs の取り組み事例

J A 香川県では、J A の経営理念そのものが SDGs と親和性が高く、事業や活動が SDGs と関わりが深いことを認識しているとともに、SDGs に積極的に取り組まないこと自体がリスクであるという危機意識があり、現在 SDGs に積極的に取り組んでいる。

#### ■ J A の事業・活動と SDGs の紐づけ

J A 香川県は、中期経営計画の重点施策と SDGs を関連付け、星取表に整理し「見える化」することで SDGs の達成への意識を高め、取り組みを強化している。

また、組合員への情報発信として、J A の事業・活動と SDGs がどのように結びついているかを広報誌でわかりやすく解説している（組合員への見える化）。

## ■中期経営計画とSDGs

JA香川県は、中期経営計画において、SDGsを重点取組事項と考え、持続可能な「農業」「地域社会」「組織」の実現に向けてSDGsに関する具体的な取り組みを単年度計画で策定し、実践している。また、部署別・場所別の目標を設定して取り組むことで、役職員の意識醸成を図り、目標達成へつなげている。

また、中期経営計画を策定するために設置したプロジェクトチームの中では、SDGsの達成に向けた新たな取り組みを検討している。検討にあたっては、2週間に1度のペースで計5回集まりSDGsの学習、情報収集、具体的立案、資料作成等を行っている。特徴としては、受動的インプット（座学）の時間をできる限り少なくし、能動的インプット（自ら情報を取りに行く）の時間を多くとっているところである。

## ■結びに

JA香川県では、SDGsの17の目標をさらに掘り下げ、どのような施策が考えられるか検討することで、様々なアイデアを得ることができている。

そうしたアイデアを実現する方法を検討する過程では、自前主義に陥らないことを意識し、SDGsへの賛同の輪を広げ、地域全体でSDGsの達成実現を目指している。

JA香川県のSDGsの取組は  
ここから確認できるよ



SDGsの概要は  
ここから確認できるよ



## 4. キャラクター笑味ちゃんの紹介

JAオープンサイトでは「SDGs笑味ちゃん」をはじめ、キャラクター笑味ちゃんデータを掲載している。JAにおいて作成する印刷物やグッズ、ウェブサイトなどの各種媒体で幅広く活用できるので、積極的に活用していただきたい。

※ 使用には事前申請が必要な場合がありますので、詳しくはJA青森中央会 農業対策部 組織農政課までお問合せください。

使用する時は  
運用マニュアルを読んで  
正しく使ってね



ノーマル  
笑味ちゃん



SDGs  
笑味ちゃん



フラワー  
笑味ちゃん

© みんなのよい食プロジェクト

### 【掲載場所】

JAオープンサイト



書庫 B\_ 中央会公開資料



B05\_ 組織農政



B0502\_ 広報



みんなのよい食プロジェクト

(中央会 農業対策部)



## POPこそ最強ツール

J A 十和田おいらせが運営するファーマーズ・マーケット「かだあ〜れ」は、店内広告（POP）づくりに力を入れている。出荷会員や食育ソムリエの資格を持つ従業員らが商品の特徴や豆知識、食べ方など、それぞれの知識を生かしてアピール。楽しく買い物ができると思い物客の心を掴んでいる。

「かだあ〜れ」はPOPこそが売り上げにつながる最強ツールと捉え、2020年のオープン時から少しずつ掲示数を増やしてきた。現在は100点以上のPOPが店内のにぎやかさを演出し、顧客満足度と売り上げアップの一翼を担っている。

同店では1月10日、買い物客の「買いたい！」を駆り立てるPOPづくり研修会も開いた。「POPの学校」の山口茂さんを講師に招き、出荷会員や従業員が目を惹くPOP文字や色使い、デザインを学んだ。正解が分からず、POP作りを途中で諦めていたという出荷会員は研修後「自分らしく描いて良いんだと気持ちが楽になった。新たに作って、商品の良さを広めていきたい」と意欲を燃やした。



手作りPOPが買い物客の心をつかむ

## 若手営農担当者 レベルアップへ

J A 十和田おいらせは、若手営農指導員で構成する「環境再生型農業プロジェクトチーム」を立ち上げた。メンバーは実務経験5年前後の9人。営農に必要な知識や技術を多角的に学ぶほか、地域の特性を生かした耕畜連携農業の試験・研究強化で、新たな地域農業の基盤確立と環境負担の軽減を目指す。

1回目の研究会では、土壌診断分析研究会の会長を務める斗澤康広専務を講師に、土壌の成分や土壌微生物の役割について学んだ。研究を基に、J A 管内の稲わらやもみ殻などの敷料と家畜糞尿を発酵させた完熟堆肥を土壌に還元。土壌内に生息する微生物の活発化と種類の増加を促し、従来までの土壌診断を活用した肥料バランスを整えた栽培に加え、



斗澤康広専務とプロジェクトチームのメンバー

土の生物性と物理性を改善した土づくりを目標に研究していくことを決めた。

研究には、J A のベテラン営農指導員や近隣大学の教授も協力。土壌の研究には、J A で所有する土壌分析装置を活用していく。

メンバーの指導やさい部指導課の山白聡さんは「研究をしながら経験を積んで、地域の農産物のさらなる価値向上と肥料コスト削減につなげたい。数十年後も続く地域農業のサポートをしていく」と意気込む。



# 輝き

J A全農あおもり  
米穀部米穀総合課  
今野 由彩 さん

●プロフィール  
2023年4月から勤務 青森市出身 22歳

## — 働くきっかけは？ —

学生時代の授業の一環で地元や地元の食に興味を持ちました。その経験から、地元の魅力を改めて知り、食を通して地元の発展に貢献できる人材になりたいと志望しました。

## — 業務内容を教えて下さい。 —

大豆に関する契約を結んだり、集荷の際にはJ A、倉庫側とスムーズな集約を行うためにやり取りを行うなど。

## — 働いた感想は？ —

今まで農業の分野に係ってこなかったので専門用語や数量を表す単位が複数存在することに戸惑いがありました。

## — 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

現時点では覚えることが多い状況なので、まずは仕事内容の理解を第一優先に心掛けています。そのほかに、時間を意識して業務を行うことを心掛けていければと思っています。

## — 特技・趣味は？ —

趣味になるのですが、国内旅行に行くことが好きです。地元とは違った空気や景色を感じることができるので良い刺激になります。

## — あなたが自慢できることは？ —

自分の好きなもののためなら何時間でも時間を費やせることです。飽きることがないので好きなものを見たりしているときは集中力が高くなると思います。

## — 将来の夢は？ —

現時点では主に米穀についての知識をつけている段階ですが、その他の農作物の知識もつけて、青森の現状の解決や発展に貢献できる人材を目指していきたいです。

## リンゴ枝を資源循環



少ない煙で勢いよく燃焼する（モキ製作所提供）

J A相馬村では、県内自治体で初めて「SDGs 未来都市」に選ばれた弘前市と連携して無煙炭化器の無償貸し出しを、昨年12月から実施している。

無煙炭化器は、特殊な形状から無酸素空間を作り出し、二酸化炭素の排出を抑えながら、土壌改良や生産性向上に役立つとされるバイオ炭を生成できる。

乾燥させたリンゴ剪定枝を、土の上に置いた底抜けのドーナツ形状のステンレス容器に入れ燃やす。横風の影響を受けにくいと、従来の焼却処分法に比べ安全性も向上している。燃焼が進むと灰になってしまうため、炎が消えた段階で水やふた等で鎮火させ、炭を作ることがポイント。

炭を土中に埋めると、表面の無数の穴により土壤中の微生物の繁殖が促進され土壌改良につながり、水通りも向上する。さらに、腐らん病斑など病害の出た枝木の焼却処分にも最適。剪定枝を炭化して土中に難分解性の炭素を貯留することで、二酸化炭素の発生を抑制することができる。リンゴ産業界における環境負荷軽減の一助になるだけでなく、畑の資源をリンゴ園地で循環させられる点でも魅力ある取り組み。

J A相馬村では引き続き、環境に配慮したリンゴ生産の普及に向けて、組合員への無償貸し出しを継続していく。





小田島さんが作った「かぼちゃパウダー」㊦と「菊芋パウダー」㊧

青森市の奥内地区で多品目の野菜を栽培している「おだしま農園」の小田島亜矢子さん。会社員をしながら副業で農業を始め、2020年に専業農家として就農。小田島さんが育てる野菜は全て、無農薬、化学肥料不使用。環境に負担をかけずに、安心安全な野菜作りにこだわっている。

廃棄ロスゼロを目指し、加工品を作ろうと考えた小田島さん。かぼちゃや菊芋等を乾燥させて、手軽に常時食べることができるパウダーにすることに。10月から11月までは、直売所でかぼちゃパウダーを販売していた。このパウダーは、「恋するマロン」という甘くてまるで栗のような味がするかぼちゃを、30時間以上かけて、じっくり乾燥させて作った。お菓子やパン作り、赤ちゃんの離乳食にもオススメ。また11月中旬からは、菊芋パウダーを販売。いずれの商品も無農薬、かつ化学肥料不使用のため、健康志向の方やペット等も一緒に安心して食べれると、人気商品となっている。菊芋は、イヌリンという水溶性食物繊維が豊富に含まれており、腸内環境を整え、血糖値の上昇を抑えると言われている。みそ汁やヨーグルトにまぜる等、美味しく手軽に食べれるのも魅力である。

## 後編 記集

1月下旬、例年とは違い雪は少なめ、このまま過ぎしやすい冬で終わるか、終わってよいのですかね？

今回の写真は姫路城と太陽の塔です。どちらも11月の出張で見に行った場所です。姫路城は改築前後を含めて初めてかな？天守閣は美しく、天守閣からの景色もしかり、堀の水面に映った逆さの姿がまたよかったです。太陽の塔は昔の万博当時に外からのみ見た記憶が？今回は塔内部の新しく再現された「生命の樹」も階段を登って見れました。ちなみに階段は塔の腕の所までが終点でした。

両方とも近くに行く機会があれば皆さんもどうですか？

それでは皆様、「SEE YOU ON MARCH!」(一)



## ホームページアドレス

- J A青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>  
イベントの様子、歳時記、産直・J A情報などをご覧いただけます。
- J Aバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>  
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のJ Aバンクへのリンク等をご覧いただけます。
- J A全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>  
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- J A共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>  
J A共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。